



茜雲

大口高校だより



鹿児島県立
大口高等学校

〒895-2511 伊佐市大口里2670

TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

52人のスタート～第81回入学式～

4月8日、市長や市内の小中学校の校長先生をはじめ、多くのご来賓をお迎えして、第81回入学式が挙行されました。天候にも恵まれ、桜が舞う気持ちのよいこの日、近年で最も多い52名の新生が大口高校の門をくぐりました。

新生を代表して、菱刈中学校出身の山口蓮侍くんが「心身ともに鍛え、大口高校の生徒としての本分を全うします」と誓いの言葉を述べました。

肥後校長は式辞で、本校の校訓「剛・和・新」をもとに、「志を高く持ち夢を描け」「感謝の心を忘れないでほしい」「挑戦者たれ」と新生に向けて言葉を贈りました。

伊佐市長やPTA会長からも、人生の先輩として、高校生になるにあたって大切なメッセージをいただきました。

担任紹介の後は、新2・3年生の有志による校歌紹介がありました。温かい笑顔で力強く歌う先輩方の歌声に、新生たちは真摯に耳を傾けていました。

新生の皆さんの高校生活が日々充実したものになるよう、心から応援しています。



ようこそ大口高校へ～新任式～

令和8年度の定期人事異動で大口高校に赴任された3名の先生方の新任式が、4月7日に行われました。先生方の挨拶の後、生徒会長が歓迎の言葉を述べました。

その後始業式があり、早速肥後校長から「挑戦することの大切さ」についての式辞がありました。

◎新任の先生方を紹介します。敬称略、()は前任校。

- 校長 肥後 雄二 (鹿児島玉龍高等学校教頭)
- 家庭科 堀内 華梨 (鹿屋女子高等学校)
- 養護 實方 めぐみ (県教育委員会高校教育課 学校教育生徒指導班指導主事)



校長室の窓辺より

新たに赴任しました校長の肥後です。歴史と伝統を誇る北薩の雄・大口高等学校で、素晴らしい生徒や先生方とともに働くことを大変うれしく、誇りに思っています。4月1日、満開の桜をはじめ多くの花々に迎えられ、伝統ある校舎に足を踏み入れたときの緊張と喜びは忘れられません。これからは誰にも負けない大口高校愛を胸に、全力で取り組んでまいります。

「茜雲」では、今年度も生徒の活躍や学校の日々をお届けします。保護者・地域の皆様には、変わらぬご支援とご声援をお願い申し上げます。



桜祭り「口高ベーカリー」

3月28日(土)、忠元公園で開催された桜祭りの一画で、本校2年生の生徒たちが「口高ベーカリー」を出店しました。

総合的な探究の時間で「伊佐の特産品を使ったパンの開発」に取り組んでいる班が、「パン工房ながの」さんの協力を得て、伊佐米をイメージした「おにぎりパン」、金山ネギを使用したピザパンなどオリジナル商品を販売しました。

パンを購入した市外からのお客様は、「金山ネギは知っていたが、ピザへのトッピングは予想外。高校生のアイデアに驚いています。」とのことでした。



「古民家カフェ」オープン

3月28日(土)、「ふぁみり庵はいから亭」前の空き家を活用して、1年生の生徒たちが、古民家カフェを実施しました。昨年、伊佐市の都市計画マスタープラン策定に向け、「空き家対策」を研究したメンバーが中心となって企画。カフェのメニューは、自家製コーヒーとデザートなど。特に、プリンが本格的で、お客様から大好評でした。

閉店後、1年生(新2年生)の山崎 隼来さんは「試作を繰り返し完成したデザートを皆さんが喜んでくれて嬉しい。これからは地域活性化に向けて、私たち高校生に出来ることに挑戦したい。」と話しました。



後に続け～卒業生進路体験発表会～

3月24日に、3月に本校を卒業した3年生による進路体験発表会がありました。進学・就職代表の7名の先輩方が、どのように進路を決定し取り組んできたかを後輩に向けて伝えてくれました。「検定取得を頑張っていてよかった。大学受験にも活かした。」「ボランティア活動にたくさん取り組んでいてよかった。面接の際にアピールすることができた。」「気になる学校はオープンキャンパスに早いうちに行って、自分の目で見たほうがよい。」「進路の選択肢を多く持てるように、日頃の学習などやるべきことには真剣に取り組んでおくべき。」など、頑張っておいてよかったことや受験の反省点について、後輩たちに具体的にアドバイスしてくれました。1・2年生（新2・3年生）も真剣な表情で先輩方の話を聞き、メモを取っていました。

また今回、国公立大学に令和に入って最多の7名の先輩方が合格しました。（鹿児島大学3名、宮崎大学2名、長崎県立大学1名、宮崎県立看護大学1名。）放課後遅くまで学校に残り寸暇を惜しんで受験勉強に励む姿や、土日や年末年始も模試を受け、懸命に復習や先生への質問を行う姿に、後輩たちも大きな刺激を受けていました。今回の先輩方のアドバイスをもとに、よりよい進路選択・進路決定ができるように頑張ってください。



お世話になりました～離任式～

3月25日に離任式があり、本校を離れる4名の先生方から挨拶がありました。本校に7年間いらしゃった先生は、初めて大口高校を訪れたときの本校生の制服がとても印象的だったことや、7年間ですべての生徒と授業で関わり、本当に思い出がいっぱいだったと話していました。また、ある先生は学生時代から教員になるまでの人生をユーモアを交えながら話し、ある先生は大口高校に赴任するまでの経歴や思い出を臨場感たっぷりに伝えていました。

その後の生徒会長のお礼の言葉や生徒会からの花束贈呈では、生徒たちも感極まり涙する場面もありました。卒業生も多く参加し、温かい雰囲気にも包まれた離任式でした。4名の先生方の新天地でのますますのご活躍をお祈りしています。

◎転出される先生を紹介します。敬称略、()は新任先。

〔校長〕 吉満 庄司 (御退職) 〔英語科〕 阪本 龍一 (国分高等学校)、
〔家庭科〕 山下 悦子 (御退職) 〔養護〕 柳田 せいな (蒲生高等学校)



伊佐の近現代／未来シンポジウム

3月20日、菱刈環境改善センターで、伊佐市の近現代の歴史を振り返り、これから進むべき道を探るシンポジウムが開催されました。吉満校長が鹿児島大学法文学部付属「鹿児島市の近現代」教育研究センターの客員研究員をしている関係で、両校の共催で実現しました。

第1部の吉満校長による基調講演では、牛尾金山、曾木発電所、国鉄山野線、そして大口高校を切り口に伊佐の繁栄の歴史について紹介しました。第2部のパネルディスカッションでは、橋本欣也伊佐市長、猩々農園取締役の猩々由美子さん（本校OG）、伊佐アシスト代表の井ノ原大成さん、鹿児島大学大学院生の山中雪嘉さん、そして本校2年生（新3年生）の林優希君が登壇し、様々な視点から伊佐の課題と解決策について語り合いました。

特に、林君は海外研修に行った経験などを踏まえ、伊佐米の知名度アップに向けSNSを駆使した若者目線でのPRを提言して、会場からの拍手もありました。これからの伊佐市を担っていくのは間違いなく若い彼らです。そうした人材を育成するのも大口高校の大きな使命だと、改めて実感しました。



吉満校長が最終講義

3月13日、吉満庄司校長の最終講義が実施されました。2年生の「歴史総合」の時間に企画されたもので、テーマは「薩摩藩英国留学生」。160年前に決死の覚悟で異国の地で学んだ同世代の若者たちを題材に、自分に出来ることを誠実に取り組むことの大切さを訴えました。

講義の後、2年生（新3年生）の川平大翔君は、「留学生たちのように、何事も自分の目で見て経験することが大切だと感じた。これからの人生、積極的に行動することを心がけたい。」と述べました。



編集後記

令和4年に教頭として赴任し、翌年そのまま校長に昇進して、合計4年間大口高校に勤務しました。そして、このたび役職定年を迎えることになりました。その間、生徒、保護者、同窓会、行政、そして地域の皆様に支えられてきました。お世話になりました全ての方に、改めてお礼申し上げます。

さて、大口高校の特色ある教育活動や生徒たちの頑張っている姿や、中学生や地域の皆様にも知っていただけるよう、毎月この「茜雲」を発行してきました。今後、紙面や形態は変わっても大口高校の魅力発信は続けていくと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。

(文責：吉満庄司)

★R8年度は「茜雲」は偶数月に発行予定です。(6・12月号はイサコーと兼ねます。)

